

三研マイクロフォン

1925年に創業したサンケン・マイクロフォンは、間もなく100年企業となり、プロオーディオ部門に出展。

同展ではハイレゾ・スーパーオーディオ時代の100 kHzまでの広帯域集音マイクやデジタル周波数移行に対応したラベリアマイク等の視聴を中心に紹介した。

同社は、1964年に開催された東京オリンピック



クでは、NHK 技術研究所と共同開発の接話型ダイナミックマイクML-1 が使用された。

また、1968年にはコンデンサマイクロホン分野に進出。

NHK 技術研究所と共同開発した卓上型コンデンサマイクCUS-101 がテレビの定時ニュース番組で使用されるなど、輝かしい功績となっている。

また、2001年からは海外市場に向けて直接輸出販売営業を開始し、NABで「ショート・ショットガンマイク」、「サラウンド対応角度可変型XY方式ステレオマイク」、「100kHz対応超広帯域マイク」を発表し世界の注目となった。

そのような歴史を持つ同社の本年の同展でのアピールポイントは、「音をそのままに」をコンセプトとしたプロフェッショナル用マイク



ホンメーカーとして音楽用マイクロホンからステレオマイクロホン、ショットガンマイクロホンなど数多く取り揃えた。

製品紹介▶

<https://sanken-mic.com/report/index.cfm>



◀ 音声案内

<http://www.uni-w.com/fdi/2412/sanken.wav>



K-WILL

株式会社K-WILLは、同社のファイルベースQC (Quality Control) ソリューションを中心に展示し、熟成されたQC ツールの提案を行った。

K-WILLは、コアコンピタンスであるノイズ評価及び検出技術をさらに磨き上げてQC ツールを発展させてきたが、本年は「4K/2K 一体型制作の完全自動化QC」をメインテーマに掲げ、これまで不可能であった、異なった解像度間で全画素を用いて比較を行い、トランスコード前後のファイルの同一性を担保するシステムを提案した。

同社の強みは、評価信号を単独で検査する場合 (NR方式: No Reference) と、評価信号と基準信号の比較を行い、より厳格に検査を行う場合 (FR方式: Full Reference) の2つの方式を必要に応じて選択できるところであるが、これらのツールを通して、ユーザーのより一層の効率化、省力化に寄与することとなる。

トランスコードQCの提案(Full Reference): これまで、4K/2K 一体制作を行った場合、4K HDR のファイルで試写を行い、さらに2K

SDRのファイルでも試写を行う必要があり、元は同一のコンテンツであるにも関わらず2倍のリソースを要した。これを新規開発したQC ツールで自動化し、異なる解像度でありながら、ダイナミックレンジや色域の違いを吸収した上で、FR方式による比較検査を行い、トランスコード後の2K コンテンツの検査を自動化することが実現した (NHK との共同開発品)。さらに、トランスコード前の4K ファイルを、後述のProQ4000 で検査をすることで、完全自動化を実現した。

4K/2K 映像・音声検査 ProQ4000 の提案 (No Reference): PC ワークステーション上で4K/2K ファイルもしくは12G SDI に対して、ブロックノイズ、ラインノイズ、プチ音等一瞬のノイズをリアルタイムで正確にとらえることができる、映像・音声検査装置を提案。さらに本製品は、光点滅 (Ofcom および民放連の両基準に対応) やラウドネス等のガイドラインについても同時計測が可能である。ブースでは、検査結果とエラーキャプチャー機能をハン



ズオンで紹介した。

動画ファイル画質評価装置 VP10000 の提案:

VP10000は、4K/2K ファイルもしくはSDI 信号を入力し、基準画像及び評価画像の時間軸を自動補正し、画素同士ピタリと合わせこむことで、PSNRに加えて、ITU-T J.144 国際標準方式によるDSCQS (二重刺激連続品質尺度)、Pixel Error (画素エラー)、Audio SNR、VMAF およびSSIM をフレーム単位で計測可能な画質評価装置である。ファイルベースでのPSNR、DSCQS、画素エラー、Audio SNRの測定は、実時間以下で高速に評価することが可能。ブースでは、説明動画を展示し、より進化した製品展開を紹介した。

ベースバンドQC 製品の提案: 4K/2K SDI 現用・予備の障害システムを自動判定可能な映像音声自動監視装置QuMax PROBE シリーズの説明動画を展示し、より進化した製品展開を紹介した。

▶ 内容紹介ページ

<https://www.kmw.co.jp/2024-interbee/>



◀ 音声案内

<http://www.uni-w.com/fdi/2412/k-will.wav>

